〔糖尿病性神経障害に伴う痛みの治療の患者さんへ〕

●このお薬は、糖尿病治療薬ではないため、糖尿病の治療を併せて受けてください。

●血糖値やヘモグロビンA1cに影響を与えることがありますので、必要に応じて糖尿病治療薬の量が調整されることがあります。

〔慢性腰痛症、変形性関節症に伴う痛みの治療の患者さんへ〕

●このお薬は、痛みの原因に対する治療薬ではないため、痛みの原因に対する治療や、お薬での治療以外の治療を併せて受けることがあります。

ご家族の方へ

ご家族の方は、死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちの変調をきたすなどの**患者さんの行動の変化や、うつ症状などのもともとある精神症状が悪化する危険性**について主治医から十分に理解できるまで説明を受け、**患者さんの状態の変化について観察し、変化がみられた場合には、主治医に連絡してください。**また、患者さんご自身も病状に変化があったと感じた場合には、ご家族の方にも伝えるようにしてください。

その他にも気になることや、分からないことがございましたら、主治医または薬剤師に相談してください。

医療機関名・連絡先：

日新製薬株式会社　　2021年6月作成　A

デュロキセチンカプセル「日新」を服用される患者さんとご家族の方へ

□ 20mg　□ 30mg

このお薬は、脳内の神経伝達をスムーズにし、抑うつ気分や不安を和らげます。また、中枢神経系の痛みを抑制する経路に作用し、長く続く痛みを和らげます。痛みの治療に対して使用する場合は、痛みがある時のみ飲むのではなく、継続して飲むことにより効果があらわれます。

お薬を飲む前に

●7～17歳の大うつ病性障害のある人がこのお薬を飲んだ場合、有効性が確認できなかったという報告があります。**18歳未満の大うつ病性障害のある人は、主治医と十分に相談してください。**

●**他に精神科の病気を治療中の場合は、精神科の病気の症状に影響を与える可能性がありますので、主治医に伝えてください。**

お薬の飲み方

●**カプセルをあけたり、カプセルの中身を砕いたり、すりつぶしたりしないで、そのまま飲んでください。**

●このお薬は、徐々に飲む量を増やしながら、患者さんに必要な量へ調節されます。**1日1回朝食後に、主治医に指示された用量を守って飲んでください。症状を改善するためには、主治医に指示された用量を継続して飲むことが重要です。**また、効果があらわれるまでの期間には個人差がありますので、**主治医の指示に従い飲んでください。**

●飲み忘れた場合は、気がついた時に、できるだけ早く1回分を飲んでください。ただし、次に飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分を飲んでください。**決して2回分を一度に飲まないでください。**

●誤って多く飲んだ場合は、刺激がないと眠ってしまう、意識がなくなる、急に精神的に落ち着かなくなる、体が震える、汗が出る、脈が速くなる、発熱、筋肉のこわばり、手足のぴくつき、発作、吐き気、胸がドキドキするなどの症状があらわれる可能性があります。このような症状があらわれた場合には、すぐに主治医または薬剤師に連絡してください。

●このお薬をやめる場合は、主治医の指示の下、少しずつ飲む量を減らしていきます。体調がよくなったと自己判断して飲むのをやめたり、量を減らしたりすると、気分の変調、頭痛、吐き気などの症状があらわれることがあります。**主治医の指示どおりに継続して飲むことが重要です。**

お薬を服用中の注意

●**以下のような症状があらわれた場合には、主治医と相談の上、必要に応じて精神科または心療内科の受診をご検討ください。**

＊このお薬を飲んでいる間、特に飲み始めや飲む量を変更した時に、イライラして落ち着かなくなったり、生きるのがつらいと感じたり、消えてしまいたいという気持ちになったり、場合によっては死にたいという気持ちになったりすることが、患者さんによってまれにあらわれることがあります。

＊不安になる、イライラする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調をきたす、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができない、などの症状があらわれることがあります。このお薬との関連性は明らかではありませんが、このような症状があらわれた人の中には、うつ症状などのもともとある精神症状が悪化する場合や、死んでしまいたいと感じたり、他人に対して危害を加えたりする場合があります。

●**このお薬の飲み始めの時期**に**眠気や胃のむかつき**などがあらわれることがあります。症状によっては、その後治まる傾向がありますが、気になる症状がある場合には、自己判断で飲むのをやめたりせず、主治医に相談してください。

●肝機能、心拍数、血圧に影響を与えることがありますので、血液検査、脈拍数や血圧測定が行われることがあります。

●**めまいやふらつきで転倒することがあります**ので、注意してください。このような症状があらわれた場合には、早めに主治医または薬剤師に伝えてください。

●自動車の運転などの危険を伴う機械を操作する場合には、主治医に相談してください。**特にお薬の飲み始めや飲む量を変更した時、他のお薬から変更した時**に、**眠気、めまい**などの**自動車の運転に支障をきたす症状があらわれやすいので、注意してください。**また、**このような症状があらわれた場合には、自動車の運転は決して行わないでください。**
主治医より運転などをしないよう指示があった場合には、その指示を守りましょう。

●このお薬と痛み止めのお薬（非ステロイド性抗炎症薬：NSAIDs）の併用で、消化管出血の副作用のリスクが高まる可能性があります。気になる症状がある場合には、早めに主治医または薬剤師に相談してください。

●アルコールによりお薬の作用や副作用が強くなることがありますので、注意してください。

●他の医療機関を受診する場合や、薬局などで他のお薬を購入する場合は、必ずこのお薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。